

平成27年度第3回みやま市総合教育会議 会議録

- ◆日時 平成28年3月23日 午後3時00分
- ◆場所 みやま市役所4階 委員会室

1. 出席構成員（6名）

- ・市長 西原 親
- ・教育長 長岡 廣通
- ・教育委員 堤 央宜
- ・教育委員 早川 京子
- ・教育委員 井上 正明
- ・教育委員 権島 靖子

2. 事務局出席者（7名）

市長部局

- ・副市長 高野 道生
- ・総務部長 塚野 仙哉
- ・秘書広報課長 加藤 武美

教育委員会

- ・教育部長 大津 一義
- ・学校教育課長 田中 裕樹
- ・指導室長兼主任指導主事 稗田 賢次
- ・学校教育課総務係長 吉川 春美

3. 次第

1. 開会（市長あいさつ 教育長あいさつ）
2. 議事録署名人の指名
3. 議事
 - (1) みやま市教育に関する大綱について
 - (2) 「風土の良さ」の現状と課題
 - (3) 学校の困り感と支援体制
 - (4) その他

資料① 広報みやま 2014.8月号（まなびの教室）

資料② 発達障害をもつ児童生徒の状況及び対策

4. 閉会

【午後3時00分 開会】

1. 開会

市長あいさつ

統合4校については、皆様方のお蔭で無事に立派な閉校式が挙行され、有難く思っています。また4月の桜舞館小学校の開校に向けてもよろしく申し上げます。

長岡教育長就任から2年が経ちますが、日ごろから教育委員の皆さんと共に「みやま市ならではの教育」にご尽力いただいていることに感謝するとともに、今後ともみやま市の児童生徒の健全育成へのお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

教育長あいさつ

閉校式へのご出席有難うございました。良い締めくくりが出来たので、これを希望へと繋げていきたい。今後ともよろしく申し上げます。

平成26年度末に教育施策を全面改訂した後に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたため、整合性をとるのに苦心したが、施政方針における重点施策のなかの教育分野にかかる二つの項目と、まち・ひと・しごと創生総合戦略を上位概念として平成28年度施策を整え大綱に反映させた。市長の在任期間中はこの大綱となるので、よろしくご審議いただきたい。

また、今後とも市長部局と教育委員会が忌憚ない意見を述べ合い、この会議がより効果の上がるものとなるよう、よろしく申し上げます。

2. 議事録署名人の指名

(市長) 西原 親

(教育委員会) 堤 央宜

・・・全員同意・・・

3. 議事

(1) みやま市教育に関する大綱について

【学校教育課長】 前回この会議で素案を示したのち、市長部局・教育委員会事務局で摺合せを行いました。その結果、毎年度定めている教育施策を教育大綱と位置付けることが、法の趣旨に添い、かつ合理的であると判断して今回提案させていただきます。一大綱を読み上げて説明―

【市長】 質疑はありませんか。

【井上教育委員】 教育大綱案について、中の図式を説明する表題が必要ではないか。

【学校教育課長】 確かにその通りである。「みやま市教育大綱の体系図」とすることでどう

か。

【市長】 それではその説明を付記して教育大綱を定めることに承認いただいてよろしいか（一同同意）。

【市長】 それでは議事の（２）（３）について説明をお願いします。

【指導室長】 **資料①** 広報みやま 2014.8月号（まなびの教室）を参照して「風土の良さ」の現状と課題について説明。

学校の困り感と支援体制について、**資料②** 発達障害をもつ児童生徒の状況及び対策を例に、学校現場が「もの」より「ひと」を必要としていることなど説明。

【市長】 何か意見はありませんか。

【井上教育委員】 今日は現状と課題にとどまり、どう解決するかは審議はしないのか。

【指導室長】 （３）については、現在の対応をお話ししたが、（２）については、良い対応策があれば伺いたい。

【市長】 行政区未加入者の増加など、地域にも様々な変化があるようだ。

【教育長】 文化財指定が、同じ規模の市と比べて倍近くあり、行事も多いなか、地域のコミュニティ力低下は、学校だけでは解決できない切実な問題だ。

【教育長】 （３）についてももう少し議論できないか。

【指導室長】 学校の困り感に対して、人的支援は益々重要になると考えるが、予算を伴うので。

【樺島教育委員】 みやまの教育が手厚いことは常々感じている。ただ、人を配置するだけでは、困り感の解消には繋がらない。支援員への研修は行なっているのか。

【指導室長】 講師や若年教員を集めた研修は行なっているが、支援員のみを対象には行っていない。

【樺島教育委員】 飛び出していく子供を連れ戻すことは誰でも出来ても、有効な声掛けで良い効果を得られるような研修・研究が必要である。

【学校教育課長】ご指摘の通りだと思う。28年度は子どものケースに応じた対応などの研修に取り組みたい。

【樺島教育委員】病院や大学の先生との連携をしたらどうか。

【指導室長】どこの学校も、県で行う年に2回の巡回相談事業を利用している。巡回相談では、保護者も一緒に傾向性と対応についてアドバイスを貰う。

【樺島教育委員】その子に合った対応、教育は非常に大切である。

【学校教育課長】各学校へ支援員を配置する際には、必ず就学指導を行うよう指示している。

【教育長】普通でありたいとの保護者の願いは感じながらも、難しい現状がある。

【早川教育委員】年々増加している発達障害について、生まれつきでなく5歳頃から症状が現れる場合は、家庭環境に問題があると聞く。例えば虐待など注意が必要だ。

【樺島教育委員】福祉部門と教育委員会が連携し、情報を共有することが大切だ。

【学校教育課長】一昨年、議会から発達障害への早期対応について要望があり、教育委員会、子ども子育て課、健康係、幼・保育園の先生方で、発達支援連絡協議会を立ち上げ、意見交換や研修会を行っている。その他、これまで県費雇用のため小中学校のみを対象として活動していたスクールソーシャルワーカーを、平成28年度からは市費で雇用するので、早期の発達支援や虐待への対応が可能になることから、子ども子育て課と連携して問題解決を図りたい。

【井上教育委員】当面の取り組みとして、例えばPTA総会に保護者を100%出席させて、その場で学校の基本的な考え方を浸透させる等考えられる。

【学校教育課長】それは長年の課題でもあるが、なかなか難しい。

【教育長】みやま市では「家庭の約束10か条」など、他の市町村のモデルとなるような活動が行われている。

【副市長】虐待などの事件が全国的に起きているが、みやま市において対策をする組織があるのか。

【学校教育課長】教育委員会、子ども子育て課、警察、児童相談所のネットワークがある。

【指導室長】定期的には「健やかネットワーク会議」にて、中学校単位で年2回のケース会議を行っている。

【副市長】対応次第で問題も大きく変わってくるものであるので、気になって尋ねたところである。

【総務部長】桜舞館小学校はスクールバス4台での運行となるそうだが、停留所の雨の日の対応や、安全対策を伺いたい。

【学校教育課長】主に集会所等の屋根のある安全な場所を停留所としているが、全てに屋根があるわけではない。通学路2.5キロ以上を目安としているが、特に危険な場所については2.3キロ程度でもスクールバス通学の対象で、現在約半数の145名が利用予定。徒歩通学含め見守り隊を組織する予定で、現在募集中である。

【教育部長】来週2日間の通学訓練を予定しているところである。

【教育長】先ほど室長から、保護者や児童・生徒を中心に話しをしたが、教職員の良さと課題についてはどうか。

【指導室長】良さについては、特にこの3点について、みやま師魂をよく理解して、力量のあるミドルリーダー以上が沢山いるところだが、課題としてはあと5年でかなりの教職員が退職となる中での、若い教職員の育成とみやま師魂の継承であると考えている。

【教育長】私がもう一つ考えているのが、気になる子ども・遅れがちな子どもに対応するために、どんどん進んでいける子が立ち止まることのないよう、小学校低学年からとは言わないが、能力に応じて支援していく体制（人材・予算）が構築できないかという事だ。

【指導室長】組織として取り組まないと難しいと思う。

【教育長】授業力・学校経営力においてどの子も伸ばせる個々人の指導力と、そう

いった体制を取っていくといった2点が考えられる。

【市長】 それでは意見も出尽くしたようですので、今日の会議を閉じます

【午後15時48分 閉会】